

## 会議の概要

会議の名称	令和5年度 第2回三田市地域日本語教育推進懇話会
会議の日時	令和6年3月14日(木) 10時00分～11時20分
会議の場所	三田市役所本庁舎303会議室AB(オンライン併用)
出席した委員の氏名	新矢麻紀子座長、遠藤知佐副座長、楊梓委員、寿賀素子委員、中村恵美委員、田中智久委員、前川嘉彦委員、グザビエ・マルテル委員
出席した職員の職及び氏名	岸本昭人共生社会部長、鶴英治福祉共生室長、橋本純子人権共生推進課長、佐藤まゆみ人権共生推進課主幹、梶谷雅代人権共生推進課係長、高島碧衣人権共生推進課事務職員、鴻谷 亮介学校教育課主任
その他出席者	森田幸生通訳
傍聴者の人数	1名
議 事	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 開会</li> <li>2 あいさつ</li> <li>3 報告事項及び意見交換 今年度の取組と来年度の予定について</li> <li>4 今後の予定</li> </ol>
資 料	<ul style="list-style-type: none"> <li>・次第</li> <li>・資料1 今年度の取組と来年度の予定について</li> </ul>
会議の概要 ( 結 論 )	今年度の取り組みに係る成果や課題及び来年度以降の計画について意見交換を行った。
公開非公開の区分	公開

## <議事概要>

### 1 開会

### 2 進行

#### (1) 配布書類の確認

### 3 報告事項及び意見交換

#### (1) 今年度の取組について

・資料1に沿って今年度の取組について事務局・地域日本語教育コーディネーターから説明。

##### 【副座長】

資料1の今年度の取組についてご質問等ございましたらお願いいたします。

##### 【委員】

地域日本語教育コーディネーターや市と共に事業者向けやさしい日本語講座の開催に向けた打ち合わせや知り合いの市内福祉事業者に開催案内を送付する等協力させていただいた。講座に参加した感想としては、講師の話が分かりやすく、周囲の人と交流することもできたため良かった。今後は外国人を雇用している事業者同士が悩みを共有できる機会があれば良いと感じた。また、私が案内していない市内福祉事業者も参加していたため、やさしい日本語への関心の高さを実感した。外国人を雇用する事業者は年々増加しているため、こういった講座は重要である。

##### 【副座長】

文化庁の体制づくり推進事業や他市町村では事業者の参加を増やすことが課題になっている。三田市では事業者に案内する際どのように工夫したか。

##### 【委員】

ご指摘のとおり事業者は忙しく参加が難しい場合が多い。今回は、三田市国際交流協会からよりも日頃から付き合いのある事業者から案内した方が参加しやすいと考え、福祉事業者に対しては前川委員から案内を送付いただいた。前川委員が案内していない事業者からも参加いただけたということは、講座を周知いただいた事業者が他にもあったのではないかと推察している。また、昨年度のモデル事業で市が実施した事業者向けアンケートに回答いただいた事業者にも市から案内を送付した。外国人雇用に関心がある事業者と繋がりを作ることが重要である。商工会や青年会議所にも案内を送付したが、案内を送付するだけでは参加いただけないため、事業者へ個別に案内する必要があると感じた。

##### 【事務局】

役所言葉が難しいという意見が多いこともあり、職員向けにやさしい日本語研修を実施したいと考えているが、事業者向け講座は庁内へのやさしい日本語の導入にあたって良い機会だった。庁内の掲示板で参加者を募集したところ複数の職員が参加しており、関心の高さも窺えた。

##### 【副座長】

昨年度のアンケート調査や庁内掲示板を活用したり、すでに関係性がある人から案内する等多様なチャンネルを使っている。

**【委員】**

やさしい日本語講座や日本語サロン、図書館での子ども向けの読み聞かせに参加した。外国人は国籍ごとにコミュニティを作る傾向があるため、国籍が異なる外国人同士が交流する機会が少ない。講座では日本人以外に外国人同士で交流することができて良かった。工夫したこととして授業ごとに支援者と学習者のペアを変更した点をあげていたが、日本語サロンに10年以上通い、ペアの変更は良し悪しがあると感じている。ペアの変更により生徒が辞めることもあったため、繊細な問題だと思う。

**【副座長】**

ご指摘のとおり、ペア変更や何らかの事情により学習者がすぐに辞めてしまうことは課題である。

**【委員】**

講座の中でロールプレイを実施することはとても面白い。苦勞した点の欠席者の把握については、他の地域でも課題になっている。良い解決策ではないが、無料講座は欠席率が高い傾向があるため、参加料を徴収するという方法もあるが効果が分からない。以前外国人が参加しやすい会場を検討していたが、今年度の結果を勘案すると再検討してもよいと感じた。オンラインを活用する方法もあるが、三田市国際交流協会は対面を重視しているとのことで、私も対面の方が良いと考えている。最初は参加者が少なくても継続して教室を実施することで、参加者が増加する場合もある。質問として、講座でアンケートを実施しているかご教示いただきたい。アンケートは事業のフィードバックや報告書のエビデンスになる。また、防災訓練実施後の地域住民の感想を報告いただきたい。第1回懇話会では、外国人が見学だけにならないように防災訓練の企画等から参加することが重要だと意見した。地域住民が今後も継続して防災訓練に外国人を受け入れたいと考えているのかご教示いただきたい。

**【委員】**

講座の最後に学習者アンケートを実施している。防災訓練は、楽しかった、消火訓練等を体験でき勉強になった、防災食を食べることができ良かったという感想が多かった。従来と異なり、地域住民と外国人と一緒に防災訓練に参加することで交流が生まれ双方にとって良い経験だったと考えている。今回の防災訓練をもとに、外国人が主体となって企画する防災事業にも取り組みたいと考えている。

**【副座長】**

地域住民からの感想があれば共有いただきたい。

**【委員】**

地域住民のアンケートは実施していないが、外国人と会話するときはもっとゆっくり話せばよかったと言っていた人がおり、外国人が理解しやすい話し方を考えながら交流していたことが分かった。外国人と会話した経験がない人や外国語を話せる人もいる中、多くの人が他の地域住民に接するように気さくに話しかけてくれることが多かった。参加した

地域の防災リーダーの中に日本語サロン支援者がおり、地域として外国人を受け入れる雰囲気があった。今回をきっかけに、外国人が実際に住んでいる地域の防災訓練に参加できるような体制づくりが広がれば良いと考えている。

#### 【座長】

図書館で日本語多読を実施したとあったが、どのような本を扱ったのか。また、講座終了時に渡したポートフォリオの内容をご教示いただきたい。兵庫県国際交流協会が作成したポートフォリオを使ったのか、独自のポートフォリオを作成したのか教えていただきたい。秋コースの課題として「日本語レベル差がある中での「ひらがな・カタカナ」などゼロ初級者の支援方法」とあるがどのような点が課題だったのか詳しく説明いただきたい。

#### 【委員】

日本語サロン土曜クラスでは日本語多読の本をレベル別に分けて読む活動を続けていた。この活動を図書館で開催したいと思い依頼したところ、いきなり日本語多読は難しいため多言語の絵本読み聞かせから始めたいとのことだった。そのため今年度はウクライナ語と日本語で「手袋」、フランス語と日本語で「はらぺこあおむし」という絵本の読み聞かせを行い、最後に日本語多読の説明と交流会を実施した。参加者は40名と多く図書館の職員も驚いており、その後、図書館が日本語多読の本を20冊程度購入し多読コーナーを設けていただくことができた。今後も図書館と連携しながら、いつか図書館で日本語多読を実施したいと考えている。また日本語学習の場として図書館を利用できればと考えている。ポートフォリオは兵庫県国際交流協会の様式を活用した。ポートフォリオに三田市独自の項目等は追加していない。秋コースは従来と異なる会場で実施したため、学習者が記載したポートフォリオをPDFデータ化し保管する作業が大変だったが、学習者が学習記録を見返すことができ良かったと感じている。

#### 【委員】

ポートフォリオを見ると、同じ講座でも学習者によって役に立つと感じる言葉が異なることを実感した。秋コースの課題に挙げた「日本語レベル差がある中での「ひらがな・カタカナ」などゼロ初級者の支援方法」については、秋コースは日本語を少し理解できる学習者が多くゼロ初級者とのレベル差が大きい中で、ゼロ初級者に対しひらがな・カタカナを教えながら講座を進める必要があり、ゼロ初級者への支援方法の難しさを実感した。

#### 【委員】

ポートフォリオの他に兵庫県国際交流協会が作成した「わたしのことばリスト」という気になった言葉、新しく覚えた言葉を自身で記録するリストも活用した。リストの内容は学習者によって異なっていた。

#### 【副座長】

兵庫県国際交流協会のポートフォリオはチェックリストなのか。そのポートフォリオに加え「わたしのことばリスト」も活用したのか。

#### 【委員】

ポートフォリオはチェックリストではなく、できるようになったことを記載する形式である。

**【副座長】**

ポートフォリオと「わたしのことばリスト」は母語も記載可能か。

**【委員】**

ご指摘のとおりである。

**【座長】**

母語と日本語で絵本の読み聞かせを行うのはとてもいい。私の大学に韓国・朝鮮にルーツのある学生がいる。学生の祖父母や親の世代は差別が酷く出自を隠していたため学生はルーツの言語や文化を教わらなかったが、それらを継承したかったという思いを語っており、卒業論文では継承語教育をテーマにした。母語・母文化教育の重要性を改めて感じた。

**【委員】**

三輪小学校には来日して1年強経過するベトナム国籍の6年生がいる。その子どもは、三田市国際交流協会が開催するSKIPに通ったり、学校で個別に日本語の授業を実施することで、日本語が上達しコミュニケーションをとれるようになってきた。第1回懇話会でも意見したが、今年度三輪小学校では三田市国際交流協会に依頼し5・6年生を対象にやさしい日本語講座を実施した。講座前は子ども同士でコミュニケーションをうまく取れずすれ違いが生じることも多かったが、やさしい日本語講座で会話のコツを学ぶことで、コミュニケーションが取れるようになり、やさしい日本語を使うことでその子どもも日本語を覚えやすくなった。今後、やさしい日本語講座を広げることが重要だと考えている。例えば、子どもと接する機会が多い教員や保護者へやさしい日本語を周知するために、職員研修等でやさしい日本語講座を実施できれば良いと感じた。

**【副座長】**

ご指摘のとおり学校も中心にしながら地域にやさしい日本語が広がっていけば良いと思う。

**(2) 来年度の予定について**

**【副座長】**

資料1の来年度の予定についてご質問等ございましたらお願いいたします。

**【座長】**

懇話会の名称を市町地域調整会議に変更するということか。

**【事務局】**

来年度以降、兵庫県国際交流協会の補助金を活用するにあたり市町地域調整会議という会議体が必要であり、懇話会をその会議体に位置付ける。懇話会の名称は変更しない。

**【委員】**

事業者向けやさしい日本語講座を庁内職員にも案内したとのことだが、来年度は庁内職員研修としてやさしい日本語講座を実施できれば良いと感じた。日本語教育人材に対する支援講座の開催については、参加者が講座を受講するだけにならないよう修了者に日本語教室ボランティアへ登録いただく等、日本語教育に関心がある人の受け皿が必要である。

モデル事業が終了しこれまでであった資源等が減少するが、懇話会委員に講座を依頼する等使える資源を活用し事業に取り組んでいただきたい。

**【事務局】**

庁内研修は人事担当課と協議を進めている。日本語教育人材の受け皿はたくさんあるため、講座をきっかけに日本語支援に繋げていきたいと考えている。昨年度策定した方針に基づき、予算を確保しながら、継続的に事業を実施していきたい。

**【座長】**

三田市の日本語教室を視察した奈良県吉野町の文化庁の日本語教室スタートアップ事業に遠藤副座長とともにアドバイザーとして参加している。吉野町の取り組みでは庁内検討委員会の設置が高く評価されている。庁内検討委員会はごみ収集や転入窓口等外国人と接する機会が多い5～6部署が参加しており、役所や町が一体となって外国人支援に取り組む意識がある。庁内検討委員会の設置により外国人支援がシステム化されたという点も良い。外国人に接する機会が多い部署ややさしい日本語講座に参加予定の部署からも本懇話会に参加していただくのはどうか。

**【副座長】**

三田市は社会福祉協議会との連携が強い印象がある。吉野町の庁内検討委員会は社会福祉協議会も参加している。

**【委員】**

吉野町は、地域日本語コーディネーターや日本語教師と共に、町役場、社会福祉協議会、教育委員会の職員も視察に来ており、町が一体となって日本語教育に取り組んでいることを強く感じた。

#### **4 今後の予定**

**【事務局】**

今後の予定について説明。

次回の懇話会は令和6年5月～6月頃を予定しており、引き続きお世話になる委員には改めて日程調整させていただく。

#### **5 共生社会部長あいさつ**

#### **6 閉会**